

都市再生整備計画(第2回変更)

中心市街地地区

北海道 上川町

平成19年8月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	上川町	地区名	中心市街地地区	面積	26.5 ha
計画期間	平成	16	年度	～	平成	20	年度
交付期間	平成	16	年度	～	平成	20	年度

目標

大目標： 駅周辺地区における交通拠点機能の強化や生活コミュニティ機能の充実により、町民と来訪者の交流活性化を通じた、中心市街地の再生。
 目標① 駅前広場や街路の整備改善、バスターミナル(含む公共駐車場)の整備など「国立公園の玄関口のまち」にふさわしい機能・景観形成の実現。
 目標② 町民をはじめ内外からの訪問者の誰もが安心して安全に暮らし、過ごせる「年をとっても安心して暮らせるまち」の実現。
 目標③ 生活基盤としての商業地域の集積や、安心安全な農畜産物の地域内消費を拡大する「心も体も健康な食のまち」の実現。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

上川町は町域の約半分が大雪山国立公園に属し、JR石北本線と3本の国道(国道39号、273号、333号)が4つの峠(石北峠、浮島峠、北見峠、三国峠)を経て、十勝・北見・オホーツクを結ぶ交通の要衝の地で、JR上川駅を中心とする本地区は文字通り大雪山国立公園の玄関口として発展してきた。しかしながら、モータリゼーションの進展に伴い年間280万人といわれる層雲峡温泉観光客がまちなかから遠のき、あわせて昭和35年に15,000人(洞爺丸台風の風倒木処理のため人口が急増)いた人口が1/3にまで減少している事から、中心市街地が急速に衰退し昭和51年には過疎地域の指定を受けるにいたっている。こうした中、①昭和63年に商工会は人口減少による売上減少と、人口ピークに形成された現在の商店街の問題点を話し合う場として「まちづくり活性化委員会」が設置され、活性化のための調査研究が始まった。②平成3年には「上川町グリーンフロントプラン協議会」が発足し、当初は大通りの拡幅と近代化事業による活性化を考えたが、線の整備では商店街としての整備効果が薄い事から、区画整理事業を整備手法とした「まちづくり」が検討された。③平成4年～平成10年には協議事項が個別的・専門的となってきたため組織強化のため「魅力あるまちづくり推進協議会」を発足させ近代化構想、近代化計画、区画整理A・B調査が実施され、上川町市街地再編構想が策定された。④平成11年度には区画整理に関する都市計画決定、平成12・13年度には商業再編の権利者協議(コンセンサス形成事業)が行われた。⑤平成14年度には「上川駅周辺地区土地区画整理事業」が認可され、並行して「中心市街地活性化基本計画」が北大野口助教授を中心に町民・学生が様々な会合を重ねて策定され、活性化のテーマを「森のまちの森のテラス(縁側)づくり」と定め現在に至っている。

課題

高齢化の進展・人口流失・基幹産業(農業・観光)の停滞・交通の変化を背景に財政難と増える維持コストを考えた時、上川町が目指すべきまちづくりでは、自然環境の有利さを多角的に生かし、産業の有機的なつながりを工夫し、相互扶助にたつた暖かい人間模様が活躍しやすい「コンパクトなまちづくり」が求められている。当地区では「①商店のコンパクトな集約再編 ②商業核ゾーンの形成 ③交通結節点(バスターミナル)の整備 ④高齢者のまちなか居住 ⑤移動制約者(高齢者、体の不自由な方、妊産婦等、移動になんらかの困難性を伴う方)のためのバリアフリーなまちづくり」を如何に進めるかが具体的課題となる。

将来ビジョン(中長期)

総合計画:「自立・共生・創造するまち上川」をテーマに駅前商店街の基本目標を (1) 国立公園の「顔」として～国際交流ゾーン:(ア)国立公園のまちであることを活かす。(イ)大雪山国立公園のゲイトタウンとしての位置づけ。(2) 交流の「顔」として～世代間・地域間交流ゾーン:(ア)市街地機能の集約化、効率化と補償。(イ)老若を超えたコミュニティ形成の強化。(ウ)高齢化社会に向けた対応。(エ)町内外交通・交流拠点としての活用。(3) 産業の「顔」として～産業間交流ゾーン:(ア)既存商店街の商業集積のポテンシャルを活かした再編成と高度化。(イ)商業活動の効果的展開。(ウ)町内産業の振興、交流の場の形成、としている。
 都市計画マスタープラン: 中心生活交流拠点に位置づけられ、「身近な自然と人々のにぎわいが調和した街」をテーマとして商業再編、既存施設の活用、歩行者機能の高い道路づくり、駐車場整備等を面的に整備すると位置づけている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
路上駐車車両台数	台	当地区における平日12時の路上駐車台数	交通結節点等の整備により、路上駐車台数の半減を目指す。	60	16	30	20
延焼防止性能の向上	%	当地区における建物更新割合	防災性・安全性の向上のため、1割以上の建物更新を目指す。	2戸/415戸=0.5%	16	50戸/415戸=12.0%	20
居住人口の増加	人	当地区における常住人口数	高齢者等に対応した住宅建設を通じ、1割程度の人口増を目指す。	760	16	830	20
空き店舗の解消数	戸	当地区における空き店舗戸数	商業再編を通じ賑わいを再生するため、半数の解消を目指す。	24	16	12	20
歩行導線・環境の満足度	%	当地区における歩行導線・環境の満足度(アンケートによる)	ポケットスペース(森のテラス)のネットワークを作る事により、居住者の半数以上の「便利・安心・安全」満足を目指す。	-	16	50	20
まちづくりの推進率	%	当地区におけるまちづくりの推進率	町民及び外部関係者等に対するアンケート調査の結果を参考に、まちづくりの推進率を向上させる。	-	16	100%	20

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・交通結節点である上川駅と連動した都市間バスターミナル、公共駐車場を創出、観光交流、地域間交流、世代間交流、産業間交流等複合施設として活用し上川型コミュニティビジネスの創出拠点とする。</p>	<p>土地区画整理事業(関連事業、町)による駅前広場のリニューアル、バスターミナル・公共駐車場用地の確保。複合施設建設事業(関連事業、町・民間)。都市再生整備計画による森のエントランス整備事業(基幹事業)。道路整備(基幹事業)</p>
<p>・高齢者のまちなか居住推進のために住宅団地街区をまちなかに創出するとともに、町立病院や保健福祉センター等各施設との「安心・安全な導線強化」をはかるため、ポケットスペースを適宜に配置する。</p>	<p>土地区画整理事業(関連事業、町)による公営住宅用地、ポケットスペース用地(森のテラス)の確保。公営住宅整備事業(関連事業、町)による集合住宅建設。都市再生整備計画による森のテラス整備事業(基幹事業)</p>
<p>・商業のコンパクトな集積をはかるとともに、多雪地帯の高齢化を見据えたバリアフリーな歩行者空間を創出する。</p>	<p>土地区画整理事業(関連事業、町)による商業再配置、共同店舗事業(関連事業、民間)、駅前中心商業地核店舗創設事業(関連事業、民間)、こみせ整備事業(関連事業、民間)</p>
<p>・既存建物を活用した「地産地消」の拠点を創出する。また、上川型街路菜園を創出、維持管理の住民新体制組織の形成により、産業間を超えたコミュニティ形成をはかる。</p>	<p>農協煉瓦倉庫を活用した「たべもの交流館」整備(基幹事業、町)。街路植樹帯を活用した菜園の創出(関連事業、町)。地場産品の販売、「たべもの交流館」のイベント、PR活動等(提案事業、町)</p>
<p>・「森のまちなかの森のテラスづくり」実現のため、建物デザイン、公共施設デザインはどうあるべきか、住民のワークショップを通し実験事業として総合評価を行う。</p>	<p>上川らしい「景観と福祉を考慮した」まちなみデザイン計画の策定と総合評価(提案事業:社会実験事業)</p>

その他

○事業終了後の継続的なまちづくり活動

本町では昭和63年より「まちづくり活性化委員会」→「上川町グリーンフロント協議会」→「魅力あるまちづくり推進協議会」等、まちづくりの実現化に向けて官民一体となつた組織の充実を図ってきた。今後は魅力あるまちづくり推進協議会の専門部会を強化し、街の維持・管理、イベント等の開催を推し進めて行く。また、「たべもの交流館」は平成14、15年度に実施した「まちぼとまきばの女将さん交流事業」の組織を平成16年度より「スロ-フードを楽しむ会」に発展改組、運営する予定である。

○交付期間中の計画の管理について

土地区画整理事業との調整を図りながら、各事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるため、町と魅力あるまちづくり推進協議会が協同して毎年、事業成果について評価・改善を行うためのモニタリングを実施、情報公開する。

